

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	367010793
法人名	医療法人 一洋会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	徳島県徳島市下町本丁61番地の1 (電 話) 088-644-1101
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 6日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤11人, 非常勤2人, 常勤換算	①6.37人, ②6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島さくらクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道から少し入った静かで小高い場所にあり、紅葉などの眺めが美しく、自然環境が良い。同敷地内の母体法人クリニックやデイサービスセンター等と連携が密に図られ、利用者、家族の安心感が得られている。日常生活においては、利用者の希望や持てる力を見出すことに努め、役割や楽しみごと等、張り合いのある生活ができるよう、日々取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の見直し及び利用者の権利・義務の明示について、運営者や職員介護部会で話し合いが行われ、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念が作成され、運営推進会議や家族に報告している。また、権利・義務については重要事項説明書に明示されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者、職員全員で行い、日ごろのケアの状況確認など話し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催され、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等のメンバーで構成されている。事業所の運営状況の報告や利用者の暮らしぶりなどの報告が行われ、事業所を知ってもらい取り組みが行われている。参加者からも地域の情報提供等が行われ、地域交流イベントなど地域との連携に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書による入居時の説明や家族の来所時に声かけをして、意見や苦情などが話しやすい雰囲気づくりをしている。運営推進会議には家族に交替で参加を依頼し、地域包括支援センター職員、地域の方との交流、情報の共有等してもらい運営への反映を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元消防団の協力を得た災害時避難訓練のほか、秋祭りへの参加、子ども会の児童を招待したクリスマス会開催など、地元の人々との交流を図っている。運営推進会議には交番のおまわりさんにも参加をもらい事業所の理解と連携を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、家庭的な環境と地域住民との交流の下、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関に理念を掲げ、職員は常に目にするように心がけるとともに、毎月の介護職員部会において理念を共有し、実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して秋祭りに参加したり、保育園児との交流、こども会の児童を招待してクリスマス会を行うなど、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、日ごろのケアの実践について確認等話し合いながら取り組んでいる。外部評価改善事項については運営者、介護職員部会等で話し合いが行われ改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等のメンバーで構成されている。事業所の運営状況等の報告や参加者から地域の情報などを得ながら話し合いが行われ、ホームの理解や地域との連携等、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者による実地指導時(年1回)に事業所の運営状況等を報告している。また、運営上わからないことがあれば担当者を訪問したり電話で問い合わせを行い市担当者との連携を図り、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には利用者の様子や暮らしぶりを報告するとともに、行事参加等の写真をさくらだより等に同封してホームでの暮らしぶりを報告しているが、全員の報告までには至っていない。金銭管理については原則利用者本人が行い、困難な方には事業所立替による、請求、領収の処理が明確に行われている。	○	家族が遠方等で度々の面会が困難な方もいるため、近況報告等は定期的にとよりを出すなど、個々に合わせた対応が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に重要事項説明書により苦情、意見等の申し出や担当者の説明をするとともに、家族の来所時に声かけをして話しやすい雰囲気づくりをしている。運営推進会議には家族の方に交替で参加を依頼し、会議内容の共有をしてもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は、事前に利用者の日常の様子や健康状況等の申し送りと把握に努めている。職員は利用者個別に挨拶をするなどし、自然に受け入れるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のために研修情報を収集して、職員の習熟度に応じた研修受講や資格取得への支援が行われている。介護職員部会での報告や報告書回覧により伝達が行われている。職員は毎月実施している法人内合同研修会に積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会研修部に属し、情報交換や他事業所との交流、法人内事業所との合同行事実施など、同業者交流を通じたサービスの質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、体験利用をしてもらうなどし、場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に調理方法や散歩時に木の名前など、時々色々なことを教えてもらいながら和やかに支えあう生活ができるような関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や思い出話などに常に耳を傾け、思いや意向を把握するようにしている。生きがいプランを作成してモニタリングしながら本人の好み、意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で本人や家族の思いや意見を聞き、月1回介護職員部会で職員の意見を聞いたり、話し合いをしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的な見直しのほか、利用者の状態の変化に応じて家族、関係者と相談しながら見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院や退居後も訪問や近況をうかがい、本人や家族の安心につなげる支援をするとともに、利用者には本人、家族の状況に応じて、かかりつけ医への通院や機能訓練の送迎などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医への通院支援のほか、協力医療機関の回診が月2回あり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応指針を定め、家族、主治医等を交えて話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者が穏やかな暮らしができるよう、対応や言葉かけに気配りをしながら、誇りやプライバシーを損なわない取り組みをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴や日ごろの会話等から一人ひとりの思いを汲み取ることに努め、利用者の体調等に配慮しながら、趣味など好みに合わせてゆっくりとしたペースでその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、盛り付け、後片付け等、利用者個々の力を活かしながら利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて入浴できるようにしており、拒むときには話題を変えるなど工夫をしながら楽しい入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力、好み等からできることを見出して、役割、楽しみごと、気晴らしに活かせるよう支援をしている。(裁縫、習字、卓球、ぬり絵等趣味のほか、テレビ観賞、買物、ドライブ、散歩、時々の行事参加等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分にあわせて、ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ等戸外へ出かける支援をしている。歩行が不安定な方には車椅子や歩行器等を使つての支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけておらず、利用者の外出の気配があれば、さりげなく声かけや行動をともし、安全面への配慮を徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時連絡網がわかりやすく掲示され、災害対策マニュアルがある。地元消防団の協力を得て、年1回避難訓練等を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はチェック表に記録し、職員は一人ひとりの状態を把握して支援している。献立表は同法人施設の栄養士により立てられ栄養バランスにも配慮されてる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られている。広々とした居間、食堂を中心に居室やトイレ等が配置され、利用者からはいつでも職員の姿が見えるため安心感が得られるようになっている。屋内周囲の窓からは紅葉の景色や車の往来が眺められ、窓辺の椅子に座ったりテレビを囲んでくつろぐ利用者の姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やタンス、時計など思い思いの物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう居室づくりがされている。		